

大学

臨床呼吸生理研究会「奨励賞」を受賞

7月6日に実施された臨床呼吸生理研究会にて、保健医療技術学部臨床検査学科の松木美貴助教が「奨励賞」を受賞しました。

1960年の発足以来、今回で117回目の開催となる臨床呼吸生理研究会は、呼吸生理に関する全般的な諸問題の基礎的および臨床的研究を自由に討論する場を提供し、会員相互の交流および知識の普及と啓発を図ることを目的としています。内科・外科・麻酔科、呼吸リハビリテーションの4分野共同で臨床呼吸生理に関するテーマで開催する全国唯一の研究会です。

今回は「呼吸生理学に基づいた呼吸管理スキルの向上を目指して」という共通テーマにて実施されました。松木助教は昨年まで在籍していた順天堂大学大学院医療看護学研究科が主導した研究「検査者のスキルに依存しない mobile tele-spirometry system の有用性の検討」について発表を行い、最も優れた演題に与えられる「奨励賞」を受賞しました。

高校

タイ王立科学高校との科学・文化交流プログラム 本校で「サイエンスフェア」を実施

タイ王国「プリンセス・チュラポーン科学高校・ペッチャブリー校」(以下、PCSHS-P)とは、2013年度より、科学交流を主とした年1度の生徒・教員の相互派遣を行っています。



サイエンスフェアの様子

6月11日～17日の7日間にわたり、PCSHS-Pの教員7名、生徒13名が本校を訪れ、「サイエンスフェア」に参加しました。これは理数キャリアコースの生徒165名全員が関わるプログラムになります。高校2年生は、交流の中心学年として、PCSHS-P生徒のバ

ディとなってほとんどのプログラムを共に過ごしました。高校3年生は、本校を代表して、6月15日に実施された研究発表会で全員が発表を行いました。高校1年生は、事前の歓迎準備や本校教員による特別授業に参加しました。PCSHS-Pの生徒たちは、ホストスターとして立候補してくれた本校生徒の家庭にホームステイし、6月16日はそれぞれの家庭でのもてなしを行われました。

今年度も両校教員による英語での理科・数学に関する授業、本校教員による日本語の授業・サイエンスクリッキング、国際交流委員や部活による文化交流、東邦大学・芝浦工業大学での実験や講義、科学未来館見学、お台場観光、両校の課題研究発表などが行われ、大盛況のうちに交流が無事終了しました。

尚、今年度は教育提携の更新月であり、次の4年間の教育提携が両校長の合意のもとで確定しました。



「サイエンスフェア」での
ポスター発表

GREEN SPIRITS



人を最高に喜ばせることを
大切に、これからも

文京幼稚園 園長
益田 薫子

この10月には文京学院創立100周年、同時に文京幼稚園開園70周年を迎えます。そこで、普段は語ることのない私自身の「島田依史子先生との思い出」を少し書かせていただきます。

私は二代目園長島田和幸の第二子として生まれ、依史子先生の孫にあたります。幼い頃は、たまに会うおば

あちゃんというよりも“威厳のある先生”的なイメージが強く、毎回緊張して受け答えしていたことを覚えています。晩年は、学校の仕事を引退したこともあり、優しく穏やかな印象に変わりました。富士山と桜が何より大好きだった依史子先生は、自身の没後はいつも富士山が見える富士霊園に分骨したいと生前にお墓を購入しました。父が「私は富士山が好きだ」と自筆で文字を入れるのが良いと提案し、それを喜んで受け入れたことを印象的に記憶しています。完成したお墓は度々参っていたと思うのですが、一度父が車を運転し私が依史子先生に付き添って、霊園を参拝しがてら河口湖の富士山が目の前に見えるホテルに一泊したことを思い出します。その頃の依史子先生は随分体が弱っていましたが、笑顔いっぱいに大層喜ばれていました。

依史子先生も亡き父も、いつも「人を最高に喜ばせる」ことを大切にしてきた人でした。

依史子先生は学校の発展に想像を絶する努力を積み重ねて来られました。きっと人との出会いやご縁を大切にし、人を喜ばせるために自分は何ができるかを常に考え、誠実に実践していくことを続けて来られたのだと思います。このことは文京学院の礎として、脈々と受け継がれている大切なことです。私自身も常に人を喜ばせることを実践し、子ども一人ひとりをよく見てしっかり育てる幼稚園でありたいと願っています。

文京学院創立100周年を機に、文京幼稚園はこれまでの70年の実績の上に、大学とも連携して新しい時代に合わせた保育を展開し、さらなる充実を目指しています。

大学 後輩に伝える体験談「てっぴんフォーラム」開催

ふじみ野キャンパスでは6月29日にオンライン形式で、本郷キャンパスでは7月3日に対面形式で「てっぴんフォーラム」が開催されました。上級生が下級生に向けて、さまざまな体験や想いを伝えることで、毎年多くの学生が「スイッチ・オン」し、それぞれの「てっぴん」に向けて邁進。今年も同実行委員会メンバーと発表者が協力し合い、充実したフォーラムを実現しました。以下に、受賞者の発表内容やコメントを掲載します。

ふじみ野キャンパス [学生実行委員長] 江口未優(人間学部心理学科2年)

本郷キャンパス [学生実行委員長] 萩原由紀(外国语学部3年) [副委員長] 村上魁祐(経営学部2年)

ORIGINAL
PROGRAM
"TEPPEN FORUM"

てっぴんフォーラム



ふじみ野キャンパスキャラクター「てっぴんぎん」
本郷キャンパスキャラクター「てんてん」「べんべん」

てっぴん賞



田口晴琉
(人間学部児童発達学科4年)



平塚駿太
(大学院人間学研究科心理学専攻1年)



江畠聖一
(外国语学部4年)



石井大空
(外国语学部4年)



高木智詞
(経営学部4年)

「チャット・ラウンジで学ぶコミュニケーション」
私は大学で学んでいます。少ない努力で大きな結果を得るには正しい方法で努力することが重要、常識に疑問を持つてみると、好きなことを深めることなど、深掘りして考えることの大切さを語りました。

「大学生活をうまく過ごすには」
私は大学で学んでいます。少ない努力で大きな結果を得るには正しい方法で努力することが重要、常識に疑問を持つてみると、好きなことを深めることなど、深掘りして考えることの大切さを語りました。

「チャット・ラウンジで学ぶコミュニケーション」
私は大学4年間で「自ら働きかける力」を成長させることができました。高校時代までは自分から行動することは苦手でした。しかし、大学生になってからオープンキャンパス委員会やゼミナールを経験し、その中での力を伸ばすことができました。大学卒業後もさらに成長させていきたいです。

「唯一無二の経験―大学4年間を経て得た力」
私は大学4年間で「自ら働きかける力」を成長させることができました。高校時代までは自分から行動することは苦手でした。しかし、大学生になってからオープンキャンパス委員会やゼミナールを経験し、その中での力を伸ばすことができました。大学卒業後もさらに成長させていきたいです。



(写真左から)山影瑠風
(人間学部コミュニケーション・社会学科3年)
中野風果 (同学部人間福祉学科4年)



オンラインライブ配信のスタジオ風景
(ふじみ野キャンパス)



(写真左から)
田村心、村上由佳、宮崎捺美、石山芽依
(外国语学部4年)



(写真左から)
坂本佑太郎、小林飛鳥、高橋侑希、永田創士、望月冬花、諫訪里梨愛
板垣登真(写真右上)(経営学部4年)



(写真左から)
川島杏心、高田有梨
(外国语学部4年)

スイッチ・オン賞



今井あかね
(人間学部人間福祉学科2年)



藤本快人
(保健医療学部作業療法学科2年) (保健医療学部理学療法学科3年)



石川慶光
(人間学部心理学科2年)



(写真左から)
横田未翔、江波弥愛、出川春希
(保健医療技術学部臨床検査学科4年)
「Hey Mickey 2024」

「農業を体験し自然に触れよう」
実家が農家といふこともあり、キャンパス内で農作物を育てるプロジェクトに参加しました。暑い中で畑を一から開拓する様子などを交えながら、農業の大変さや収穫時の喜びと達成感を語りました。将来はこれらの経験を生かして、チームで患者さんのサポートをしていきたいです。

「Muscle Project」
ダースサーカル「Muscle Project」には先輩から誘われて参加し、代表を務めることになりました。活動を通してチームワーク力とコミュニケーション力、グループをまとめる力が身につきました。将来はこれらの経験を生かして、キャリアセンターで早めに相談して計画的に目標設定などを伝えました。

「まだ遅くない!一生年のうちにやっておくこと」
1年生の時にやっておくべきだったことをして、アルバイトにより経験の幅を広げること、授業内容を理解して基礎固めをすることを話しました。また、やっておいてよかったこととして、後期の集中講義の履修、学生会に参加して先輩と人間関係を築いたこと、キャリアセンターで早めに相談して計画的に目標設定などを伝えました。



岡村優佳
(外国语学部4年)



(写真左から)澤井脩、柳碧惠 (総合学部2年)、Usmanova Farangiz (外国语学部交換留学生)、川野優花 (経営学部4年)



(写真左から)
堀梨桜 (経営学部3年)、吉田佳代 (同)
土橋歩叶 (外国语学部3年)



「新・文明の旅」
私たちは釜石市に2週間滞在し、インターナショナルプログラムに参加しながらも授業を受けるという体験をしてきました。その期間でチーム一丸となって切磋琢磨し、大きな成長に繋げました。今回の発表で、この授業に参加したい!と思ってもらったら嬉しいです。

BUNKYO GAKUIN

大学

SUCCESS

卒業生の活躍

スペインフットボールクラブ(4部)

「C.E. SABADELL」

チーム帶同スポーツトレーナー

穂近境兵(本名:穂近恭平)さん

【2020年 文京学院大学 保健医療技術学部

理学療法学科 卒業】



2023年8月からスペインのサバデルに在住し、スポーツトレーナーとして活動している本学卒業生 穂近境兵さんの活躍をお伝えします。

穂近さんは、在学中に理学療法学科の学生が自主的に立ち上げたスポーツサークル「SPOLEC」の代表を務めていました。また、テニスや姿勢分析、身体の見方など、授業で学んだ知識やスキルをスポーツ分野で役立てるために、学外のスポーツイベントにおける参加者の身体ケアなどを行ってきました。また、学生時代に株式会社Amistadのスポーツトレーナー育成プログラムに参加し、スペインで10日間、フットボールクラブのトレーナーとしての経験を積み、大学卒業後はAmistad社に入社。3年間の実務経験を経て2023年の4月に退社しました。しばらくはクリニックでアルバイトをしながら、同社から業務委託された仕事を行う日々を送った後、同年8月に再びスペインに渡り、フットボールクラブ(4部)の「C.E. SABADELL」のスポーツトレーナーとして活動・週末は試合帯同・と多忙な日々を送り、個人治療の対価や滞在施設の寮長として生計を立てながら、自身の夢を叶える活動を行っています。

穂近さんからメッセージが届きましたので、以下に掲載します。

人生は自分次第で最高に楽しくなります。私は大学3年生から本格的にスポーツトレーナーの勉強を始め、大学4年生でスペインに行き、夢が「スペインでトレーナーをやる」になりました。そして、卒業後3年で私は夢を叶え、今はさらに大きな夢へと挑戦しています。私の大学4年間は「何事も挑戦する」精神でさまざまな事に挑戦し、夢を見つけて挑戦し続けました。今振り返ると、人生の大きなターニングポイントでもあると感じるくらいの貴重な時間でした。

最後に、夢を絶対に叶える「覚悟」と「責任」を持てば、夢は叶います。何事にも挑戦し、諦めずやり続けてください。その先には必ずあなたの明るい未来が待っています。私は今「DAZNに映るトレーナー」を目指しています。皆さんと一緒に夢に挑戦し、叶えて、一度しかない人生を最高に謳歌しましょう!

中高 芸術鑑賞会

【東京フィルハーモニー交響楽団による特別演奏】

6月7日、中高の芸術鑑賞会が江東区のティアラこうとう大ホールで行われました。今年は日本で最も古い歴史と伝統を誇る東京フィルハーモニー交響楽団の演奏を、ホールを借り切って鑑賞するという豪華な鑑賞会でした。保護者の方にも希望を募り、当日は多くのご来場を賜りました。大ホール内は非常にきれいで、生徒たちも歓声をあげる中、なかなか普段触れることが少ないクラシックコンサートが始まりました。

華々しく『カルメン』の前奏曲から始まり、交響曲第5番『運命』第1楽章、『主よ人の望みの喜びを』、『カヴァレリア・ルスティカーナ』など様々な有名な曲が続き、途中で映画『アナと雪の女王』より『Let It Go』など生徒にも親しみやすい曲も含め、8曲の演奏がありました。その間に指揮者の方から各曲の解説や、実際にオーケストラで使われる楽器の実演紹介などがありました。特に、楽器紹介では、楽団員のそれぞれの楽器の特性を活かした工夫を凝らした演出により、生徒は楽しんでクラシックの世界に触れることができました。

音楽の世界に引き込まれつつ、気付けばあっという間に終演が近づく中、最後にアンコールで演奏されたのが、『ウィーン・フィル ニューオーランダーコンサート』の締めくくりでも演奏される『ラデツキー行進曲』でした。観客が指揮者に従って手拍子で参加でき、最後は楽団員と聴衆が一体となった演奏を終了となり、大きな拍手をもって演奏会は幕を閉じました。生徒の鑑賞態度も素晴らしい、敷居が高く感じやすいクラシック音楽ですが、興味を持つ良いきっかけとなりました。

からも読めるようになっています。「中級以上」をめざす学習者のみなさんに、ヒントやエールがたくさん詰まった一冊です。

編著者: 浅羽祐樹・朴鍾厚/著者: 奥奈津子・成川彩・大貫智子・浅見綾子・木下瞳・黒島規史・林炫情・新井保裕・梁紅梅・辻野裕紀/朝日出版社 (2024年7月)/2,640円(税込)

BOOK INTRODUCTION
書籍紹介

『韓国語セカイを生きる 韓国語セカイで生きる AI時代に「ことば」ではたらく12人』



BUNKYO GAKUIN
100TH
ANNIVERSARY TOPICS
SINCE 1924

100
ANNIVERSARY

パシフィックフィルハーモニア東京によるランチタイムコンサートを両キャンパスで実施

パシフィックフィルハーモニア東京によるランチタイムコンサートが、7月1日にふじみ野キャンパスのアトリウム、7月2日に本郷キャンパスのB's Diningでそれぞれ実施されました。

当団は、弦楽四重奏(第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)でのプロの奏者による演奏となりました。両キャンパスとも共通のプログラムで、喜劇劇『メリーウッド』より『ワルツ』、映画『魔女の宅急便』より『海の見える街』、映画『ピノキオ』より『星に願いを』、映画『ティファニーで朝食を』より『ムーン・リバー』、映画『アラジン』より『ホール・ニュー・ワールド』の順番で、お昼休みの時間帯に誰もが一度は聞いたことのある名曲の数々が披露されました。

両とも、会場に集った学生たちと教職員は、食事をしたり、観覧席に座りながら、リラックスした雰囲気の中でプロの演奏に聴き入る贅沢な時間を過ごしました。



中 学

バレーボール部 東京都大会「第4位」 関東大会「優勝」・全国大会「第3位」

今年も激戦の東京都予選を突破し、関東大会・全国大会に臨みました。「第78回東京都中学校バレー選手権大会」では「第4位」、「第59回関東中学校バレー選手権大会」では昨年に続く連覇（13回目の「優勝」）を達成し、全国大会への出場権を獲得しました。

4大会連続29回目の出場を果たした「第54回全日本中学校バレー選手権大会」（8月22日～25日/福井県）では、予選グループ戦を快勝し、決勝トーナメントでは準決勝に進出。準決勝では、九州代表の諫早中学校を相手にフルセットの接戦となりましたが、惜しくも敗れて「第3位」という結果で大会を終えました。決勝戦まであと一歩届かず悔しい敗戦となりましたが、5大会ぶりの上位進出を果たし、「文京ここにあり」と全国に示すことができました。



高 校

バレーボール部 関東大会「ベスト16」 インターハイ東京都予選「第4位」

6月1日・2日、「第78回関東高等学校女子バレー選手権大会」が神奈川県小田原アリーナ・平塚総合体育馆で開催されました。本校は予選で敗れてしまったため、5位で30年連続31回目の出場を果たしました。3回戦で同じ東京都代表の下北沢成徳高校に惜しくも敗れましたが、「ベスト16」で大会を終えました。

また、6月9日より開催されたインターハイの東京都予選では、6回戦、準々決勝と勝利し、無事に「ベスト4」に入ることができました。6月23日に東京体育館で開催された決勝リーグ戦では、強豪校との試合に挑みましたが、熾烈な戦いの結果「第4位」となりました。残念ながら2年連続でのインターハイ出場を果たすことはできませんでしたが、今後も試合は続いているので、応援よろしくお願いします。

青柳彩那主将（3杉）コメント

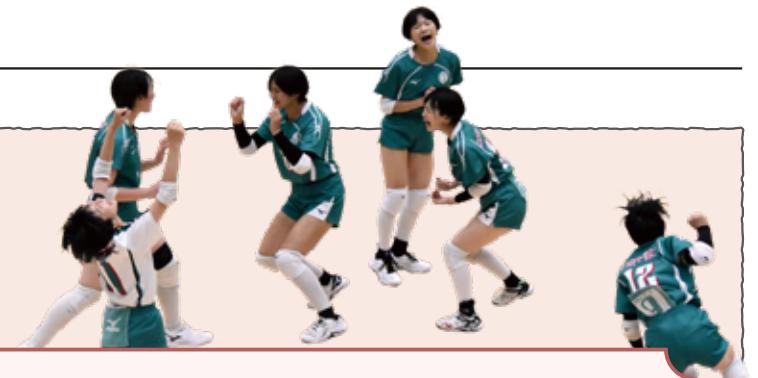
関東大会では、予選での悔しさを力に変え、目の前の試合を勝ち切ろうという思いで臨みました。初戦は、自分たちの流れに乗り切ることができず苦しい場面が続きましたが、2試合目では、相手をサーブで崩し、自分たちに良い展開がつくれました。3試合目はフルセットで負けてしまい悔しい結果となりました。インターハイ予選では、自分たちが練習してきた事を出し切ることができず、東京都「第4位」という結果になりました。2つの大会を通して見つかった課題や自分たちの力が足りない所を補い、春高予選に向けてチーム力を向上させていきたいと思います。応援してくださった皆様、ありがとうございました。

中 高

カラーガード部 関東大会「金賞」 Japan Cup「第2位」

7月21日、「関東カラーガードコンテスト2024」が埼玉県彩の国くまがやドームで開催され、中2～高2までの部員19名が出場しました。テスト終了からの短い期間で、暑い中演技を細部まで磨き上げ、「金賞」を受賞することができました。

また、8月11日に武蔵野の森総合スポーツプラザで行われた「2024 Japan Cup」では、カラーガード部門で前年を大きく上回る「第2位」に入賞しました。僅差で第1位は逃しましたが、合宿や普段の練習で取り組んできた部分が大きく伸び、社会人チームも参加するこの大会で躍進することができました。現在は、文女祭や100周年記念式典でのパフォーマンスに向けて演技を作り上げている最中です。これからもより良い演技をするために日々練習に取り組んでいきますので、応援よろしくお願いします。



佐野倅春主将（3栗）コメント

私たちの全国大会は「第3位」という結果になりました。決勝トーナメントの初戦では、大事な場面でミスを出したり周りに声をかけることができなかったり、3年生としてチームを引っ張ることができず、悔いの残る試合でした。しかし、準々決勝では、自分たちで流れを作り、相手に向かっていくことができました。準決勝の諫早中学校との試合は自分たちの全力を出しきれたと思います。ただ、それでも負けてしまったので、もっとたくさん練習して努力して、実力をつけていきたいです。そして、高校では日本一を取ります。

私たちがここまで来られたのは、支えてくださった方々のおかげです。感謝の気持ちを忘れないで、そのお返しができるよう、これからも全力でバレーをしていきます。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

【全国大会】

予選 グループ戦	本校 2 (25-17, 25-19) 0 尚学館中 (宮崎)
決勝トーナメント 2回戦	本校 2 (21-25, 25-23, 25-15) 1 Glitter (新潟)
準々決勝	本校 2 (25-20, 25-21) 0 八王子実践中 (東京)
準決勝	本校 1 (20-25, 25-19, 22-25) 2 諫早中 (長崎)



【インターハイ東京都予選】

6回戦	本校 2-0 都立文京高	7回戦	本校 2-0 東京立正高
準々 決勝	本校 2 (19-25, 25-21, 25-21) 1 駿台学園高		
決勝 リーグ	本校 0 (15-25, 23-25) 2 下北沢成徳高		
決勝 リーグ	本校 0 (19-25, 22-25) 2 共栄学園高		
決勝 リーグ	本校 0 (11-25, 10-25) 2 八王子実践高		

中 学

新体操部 2年連続関東大会出場

7月24日、関東大会の予選でもある「東京都中学校総合体育大会」（団体競技）が練馬区光が丘体育馆で行われ、ほぼノーミスに近い演技で踊ることができ、2年連続関東大会の切符を掴みました。6月には、高校新体操部も8年ぶりに関東大会に出場しており、今年は中高ダブルで出場することができました。

そして、8月6日～8日、「関東中学校新体操大会」が茨城県石岡市にある石岡総合運動公園体育馆で行われました。

昨年の経験を活かし、公式練習から本番まで、分割みのスケジュールでも、自分たちのペースで練習をこなしていくことができました。

本番当日、本会場に入ると数名が会場の雰囲気にのまれ、怖さを感じてしまったのか、思うように動けず、不安を抱えながらの本番。心配していた箇所はやはり守り体制に入ってしまったこともあり、ミスにつながりました。しかし、中高新体操部員をはじめ、先生方・保護者、そして他の東京都代表の関係者の大声援の中での演技はとても楽しかったようで、来年もまた出場したいという思いが芽生えた瞬間もありました。平常心で踊りきることが上位への道と思い知られた大会でもありました。この大会の経験を活かしてこれからも頑張っていきます。

